

宇工高同窓会々報

同窓会長挨拶

同窓会長

岡田 義治



同窓会員の皆様にはご健勝にお過ごしのことと存じます。昨年の総会で再選され、引き続き二期目の会長を務めさせて頂きます。

平成二十三年度に雀の宮に移転・開校する新しい宇都宮工高の新築工事が昨年末に着工されました。私達同窓会は、この時期に合わせ、同窓会としての課題に取り組んで参ります。①校名「宇工高」を残して欲しい、という同窓生の思いを受けて、PTA・保護

者の皆様と呼びかけ、教職員の皆様のご理解を頂き、昨年十月の「新校設立準備委員会」では校名を従来通りとするこ

とに成りました。また決定ではありませんが、教育委員会にも尊重して頂けると思いま

同窓会会報あいさつ

学校長

岡村 悦夫



②「一人は一校を代表す」という教訓を残した、初代校長・安美賀先生の胸像を、新しい学校に設置する場所が決まりました。校庭に面した最良の場所に、昭和十八年の創建当時の姿に復原します。

③現在地・京町の「宇工」の姿と歴史の概要を記録し、開校あわせて披露するための作業を進めています。

④同窓会の現状・動向をお知らせするためのホーム・ページを今年度中に開設します。H・Pについては、総会時に会員の皆様からのご提言を頂きました。

⑤これらの事業を実施するため、会員の皆様から広く「賛

助金の募集」を計画して居ります。このことについては、改めて通知を申し上げますので、ご理解を頂きたく、お願い申し上げます。

同窓会の皆様には、本校の教育振興と在校生のために特段のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、宇都宮工業高校新校ですが、工業及び情報に関する高度な専門知識・技術について学び、大学等への進学にも対応する科学技術高校という新しいタイプ

発行所
宇都宮市京町9番25号
電話 (028)633-0451
宇都宮工業高校
同窓会事務局

の学校であり、宇都宮工業高校が担っている本県工業教育の中心校としての役割を継承すると同時に、工業教育に関する種々の情報発信の拠点校としての機能を有した学校となります。即ち、宇都宮工業高校の単なる移転ではなく、バージョンアップし、栃木県における工業教育の推進を図り、開かれた高校としての機能を一層充実させていきます。

また、現在、新校設立準備委員会や新校設立準備実務作業部会等において、教育目標、目指す生徒像、校名および特色ある教育活動について検討を進めている所です。関心の高い校名については、今後、高校再編推進本部会議にかけられるなど、いくつかの手段を経て決定され、教育委員会から正式発表となります。施設・設備についても、基礎的・基本的な要素実習から先端技術に関する実習までできるような整備について検討しています。校舎は来年度中に完成し、校庭の整備を待つて9月から使用開始となる予定です。会員の皆様のお一層のご支援・ご指導をお願いします。

地域産業の担い手育成プロジェクト事業

建築科長 齊藤 延夫

本校は平成20年度より3年間、標記事業の指定を受けました。この事業は地域建設業協会と専門高校とが連携（協働）して、建設業における人材確保・育成に資する取組をモデル事業として実施し、それらの成果を全国に波及させる事業を国土交通省と文部科学省が共同で実施するものです。本校では建設業に関係する土木科・建築科・インテリア設備科・電気科・電子科の生徒を対象に実施されます。この事業は、今後の進路等に役立てることを始め、建設業の理解と興味関心を高め、建設業界の担い手として実践的な人材育成を目指すプログラ



ムです。実践項目は下記の通りです。

- 1 事業実践Ⅰ（建設業仕事説明会）
- 2 実践事業Ⅱ（生徒の企業見学）
- 3 実践事業Ⅲ（現場実習）
- 4 実践事業Ⅳ（企業技術者による授業）
- 5 実践事業Ⅴ（教員の企業実習）

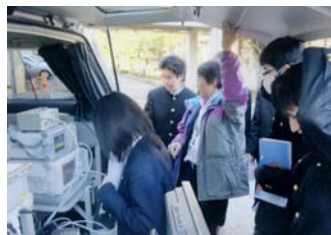
- 6 実践事業Ⅵ（ジュニア・キャリアアドバイザー事業）
 - 7 技術コンクール
 - 8 副教材の作成
 - 9 企業との共同研究
- この事業の実施に当たっては、関係機関、多くの事業所に御協力を頂き実施しています。

NHK学校出前授業 —新校設立にむけて—

電子科長 岩崎武男

NHK宇都宮放送局技術部による学校出前授業が、平成21年12月18日に本校で実施されました。電子科3年生40名が受講し、番組制作技術や地上デジタル放送技術についての講義と実習が行われ、授業では得られない知識や最新の技術を体験することができました。実際の中継車を使った番組中継技術実習では、映像の送受信をリアルタイムで行

う体験ができました(特別許可)。



また、電波測定車による受信電波の測定実習では、アナログ放送とデジタル放送の受信映像の違いや、アンテナの高さによる受信状況の変化など、TV画面の変化を感覚的に捉えるとともに、測定器を用いて工学的に検証することができました。

現在本校にある一世代前の測定器では対応できないこともあり、出前授業は新校までの橋渡しとして貴重なものでした。なお、出前授業の実施には本校OBの阿久津裕様(宇都宮放送局技術部副部長・昭和57年3月電子科卒)のご尽力を賜りました。

全日本学生児童発明 くふう展への参加

電子機械科科長

須釜喜一

電子機械科では、平成16年度「知的財産権教育」の実践協

力校の指定を受け、産業財産権に関する学習及びアイデア商品の製作活動を行ってきました。さらに、平成17年度には文部科学省指定「目指せスペシャリスト」活動の一環として「知的財産権教育」を推進することになり、平成18年度から全校をあげて「校内パテントコンテスト」を実施することになりました。優秀作品は、栃木県児童生徒発明工夫展覧会や(社)発明協会パテントコンテストに応募し、多くの成果を収めています。



平成20年度第58回栃木県児童生徒発明工夫展覧会

団体賞「金賞」

銀賞「銅賞」

平成21年度第59回栃木県児童生徒発明工夫展覧会

「金賞」2件 「銅賞」5件

第68回全日本学生児童発明くふう展 応募2件

今回金賞を受賞した2件が

第68回全日本学生児童発明くふう展に応募することができました。その作品のひとつを紹介いたします。

作品名：夜間ジョギング安全装置

健康志向ブームで夜間のジョギングや散歩をする人が増えていますが、自転車のライトでは、発見が遅くなること

があります。歩行やジョギングによる体の上下運動により、本体プラスチックチューブ内の鉄球が上下に移動します。鉄球は筒の上下に設置された圧電素子に衝突し、その衝撃的な圧力変化で圧電素子が発電します。その電気エネルギーで高輝度青色LEDを点滅させます。電池などを使わず、自らの運動エネルギーで発光ダイオードを点灯させることができ、エコで地球にやさしい商品です。

電子機械科では機械加工、電子回路製作、制御プログラミング開発を学科の3本柱とし学習活動を行っています。座学や実習で修得した知識や技術・技能をもとに、生徒のアイデアを取り入れた作品を製作し、発表できれば、さらに生徒の「やる気」や「達成感」を刺激することが可能です。

これからも工業教育の分野として、知的財産教育を推進することは必要不可欠です。新技術やオリジナルアイデアで日本の工業技術を牽引していく技術者を育成する意味でも、この活動を継続して行きたいと思えます。

新校設立に向けての 定時制の取組

定時制 教頭

湯澤修一

本校の定時制課程は、現在は、工業技術科が2クラス4コース(電気、機械、土木、建築)ですが、新校では2クラス2コース(電気、機械)となりますので、平成23年度の開校に向けて、教育課程や実習施設・設備、学習・実習内容等の検討を進めています。特に、新校では、これまでの全日制との教室共用から定時制単独教室が新たにできまうので、これをよい機会ととらえ、しっかりと学習に取り組める環境づくりを目指して、現在、今からできることを中心に様々な取組を実施しています。その取組のいくつかを紹介いたします。

定時制課程では、転編入、特別編入制度、三修制など様々な形態で入学してくる生徒が多いので、これらの生徒の多様なニーズや社会の変化に弾力的に対応するために、できるかぎり柔軟な教育課程を編成する必要があります。毎年、そういった観点から教育課程を見直しております。特に、昨年度から、三修制を希望す

る生徒が増加しており、これらに対応した教育課程編成の見直しを行っています。

また、本校定時制の教育目標の「働きながら学び、自ら考え、自ら行動できる視野の広い工業技術者を育成する」を具現化するためには、授業をしっかりと受ける態度を養うことが重要です。そのために、学習に関して守るべきルール等を生徒にしっかりと浸透させ、落ち着いた学習環境づくりと個に応じた生徒指導体制の整備等に努めております。



部活動では、授業終了後のわずか1〜2時間程度の練習時間ですが、各工夫をこらして練習に励んでいます。近年、意欲的に部活動に取り組む生徒が増加しており、団体競技を中心に県大会において優秀

な成績を収め生徒の自信につながっています。今年度は、野球部とサッカー部と柔道部が県大会において優勝し、全国大会でもサッカー部が3位に入るといった快挙を成し遂げました。今後も部活動を一層盛んにさせていきたいと思っております。

ロボコン世界大会2位

生産システム研究部
電子科2年 伊藤 吉一

8月から始まる国内予選会で、すべて満点を取り優勝しました。日本決勝戦でもすべて満点で勝ち上がり、3連覇を果たし、世界大会に出場しました。



世界大会が開催される韓国・

浦項市には大会前日の11月6日に到着しました。コース内の4個の赤と青のボールをロボットが拾い、四隅の青と赤の穴に同じ色のボールを入れ

る競技です。直前にボールの数が4つから7つに増え、競技直前にボールの色を抽選で決めるといって難しいものでした。そのルールに対応するため、部屋の一角に簡易のコースを急遽作り、時間の許す限り調整を続けました。

大会当日、決められた競技

時間内にロボットの製作とプログラムの調整を行います。与えられた時間をフル活用して、今まで作り上げた中で、最善のコンディションに仕上げることができました。世界32カ国13000チームから選ばれた強豪の中で善戦し、2回の競技とも中国チームと共に満点を取ることができました。同点でしたが、わずか7秒差で「準優勝」。念願のメダルを勝ち取ることができました。

今回このような素晴らしい結果が残せたのは、部員一丸となつて大きな目標に向かって全力で取り組んだことや、顧問の蓮田先生の熱心な指導、周囲の方々の応援があったからだと思います。また、同窓会からは海外渡航費など多大なご支援を頂戴いたしました。心から感謝申し上げます。

部活HP
<http://seisan2000.sakurane.jp>

平成二十一年度の進路

進路指導部長 蓮田 裕一

1100年に一度の世界的な不況に備えた就職

平成21年5月中旬、県内の自動車メーカーから早々に今年度の採用見送りの連絡がありました。平成20年秋に始まった世界的な不況の影響がついに現実のものとなりました。

4月から、3学年及び各工業科と連携し、放課後に就職者についても1時間の課外授業を展開しました。履歴書の書き方・SPI対策・面接練習など、例年よりも早くから就職試験対策に取り組みました。

本年度の求人企業社数は昨年の766社から561社に減少しました。就職一

求人社数の推移

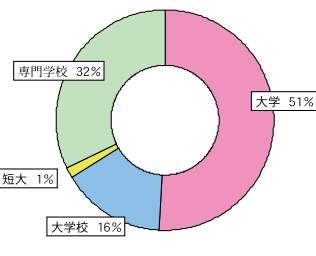
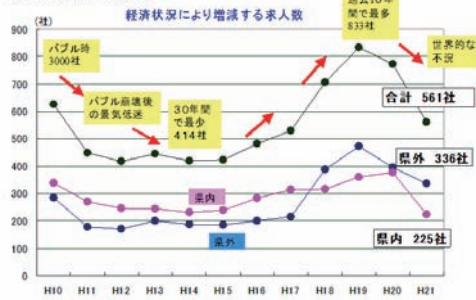


図2 進学内訳

大きく落ち込みましたが、80%の生徒が合格しました。卒業生の皆様が築いていただいた業界からの高い評価と生徒たちの努力の成果です。就職課外授業など御指導頂いた先生方に感謝いたします。

2 科学技術高校に向けた進学体制の整備

本年度の進学については大学に72名、短大・大学校22名、専門学校に46名がほぼ決定しています。今年度も金沢大学工学部をはじめ、国立大学に14名が合格するなど科学技術高校の構想にある、継続教育の充実に向けてきました。早い段階で進路を決定し、大学・短大・専門学校のように入路別・コース別の導入やカリキュラムの整備など、進学指導体制の確立を行い、そのコースやカリキュラムに添った補習を行っています。就職と進学双方の選択肢をより充実することで本校生徒の進路希望を実現したいと思います。

平成20年度収支決算報告

(1) 一般会計

収入金	8,070,643円	
支出金	3,966,081円	自 平成20年 4月 1日
残金	4,104,562円	至 平成21年 3月 31日

■ 収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
繰越金	4,566,338	4,566,338	0	
永久会員費	3,500,000	3,500,000	0	全10,000×320人=3,200,000 定10,000× 30人= 300,000
雑収入	0	4,305	4,305	一般会計利子
計	8,066,338	8,070,643	4,305	

■ 支出の部

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
会議費	800,000	715,656	△84,344	総会・理事会等
事務局運営費	300,000	211,039	△88,961	名簿管理費・通信費
渉外費	300,000	100,000	△200,000	母校歓迎会等 寸志等
事業費	1,300,000	1,439,386	139,386	饗別金、卒業記念品、 同窓会報、ISO事業費
教育活動後援費	500,000	500,000	0	H20年度教育活動後援費
慶弔費	350,000	0	△350,000	本年度より開設
特別教育活動後援費	1,000,000	1,000,000	0	H19、H20のみ補助
予備費	3,516,338	0	△3,516,338	
計	8,066,338	3,966,081	△4,100,257	

(2) その他

① 基金

(単位:円)

基金 (90周年準備金含む)	104,559,690 (4,000,000)		
足利銀行 54,396,348	栃木銀行 20,119,114	農林中央金庫 10,044,228	日光杉並木基金 20,000,000

監査報告

母校において、関係諸帳簿・領収書・通帳等と照合の結果、予算の執行・記帳・その他について、正確であり誤りのないことを証明します。

平成21年5月18日

会計監査

平成21年度予算(案)

(1) 一般会計

収入金	7,624,562円	
支出金	7,624,562円	自 平成21年 4月 1日
残金	0円	至 平成22年 3月 31日

■ 収入の部

(単位:円)

科 目	20年度予算額	21年度予算額	増 減	備 考
繰越金	4,566,388	4,104,562	△461,776	
永久会員費	3,500,000	3,520,000	20,000	金10,000×325人=3,250,000 金10,000×27人=270,000
教育活動後援費	0	0	0	
雑収入	0	0	0	一般会計利子
計	8,066,388	7,624,562	△441,766	

■ 支出の部

科 目	20年度予算額	21年度予算額	増 減	備 考
会議費	800,000	800,000	0	総会・理事会
事務局運営費	300,000	300,000	0	通信費、一般備品、 総会・理事会資料印刷代
渉外費	300,000	300,000	0	母校歓迎会等 寸志等
事業費	1,300,000	1,300,000	0	饗別金、卒業記念品、 同窓会報、ISO事業費
教育活動後援費	500,000	300,000	△200,000	
慶弔費	350,000	350,000	0	
特別教育活動後援費	1,000,000	200,000	△800,000	
同窓会HP管理費	0	300,000	300,000	本年度より開設
母校映像記録費	0	1,000,000	1,000,000	H21～H23の3年間
予備費	3,516,338	2,774,562	△741,776	
計	8,066,338	7,624,562	△441,776	

(2) その他

① 基金

(単位:円)

基金 (90周年準備金含む)	104,559,690 (4,000,000)		
足利銀行 54,396,348	栃木銀行 20,119,114	農林中央金庫 10,044,228	日光杉並木基金 20,000,000

同窓会定期総会報告

平成二十一年度総会は常任理事会に引き続いて、平成二十一年六月二十日(土)、ホテル丸治宇都宮にて開催されました。平成二十年度決算及び、平成二十一年度予算案が掲載してありますのでご覧ください。

一 役員の変更

今年度の総会において、長年にわたり同窓会の発展に尽力された副会長の中田和夫様、山中修三様、大谷碩郎様が退任されました。本当に有難うございました。新たに島田繁男様、湯口忠文様、宇梶智久様が副会長に就任されました。宜しくお願い致します。

一 役員の変向

創立七十周年記念事業や一億円基金の創設など同窓会の発展に絶大なるご貢献をされた

た出口昭元会長様をご逝去されました。また、母校の校長として、同窓会の顧問として多大なるご尽力を頂いた阿部英夫様をご逝去されましたことに心より御冥福をお祈り申し上げます。

尚、出口昭元会長様には同窓会へのご貢献に対して感謝状と記念品を贈呈致しました。

一 同窓会事務局の動向

二十一年の三月で、建築科の大森一之先生が那須清峰高へ、機械の内池広行先生が本校定時に異動されました。四月にはインテリア・設備科に葭葉功先生、理科に小太刀克美先生が赴任されました。

同窓会長賞

電子科3年五月女守君、機械科3年宮崎将真君、電子機械科3年室田和彦君の3名に授与いたしました。

平成21年度役員

会長	治男	一夫	造男	久薫	之明	昭好	蔵一	夫男	誠雄	夫男	隆長	雄
副会長	岡島	久津	口	藤津	井井	梶田	林口	橋成	田部	瀬藤	塚村	尻田
監査	阿久	湯齊	梅今	藤宇	和根	大小	出板	吉福	阿猪	伊飯	岡野	和
顧問	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
参	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根	和	宇	藤	今	梅	齊	久	島	岡	小
	小	大	小	出	板	吉	福	阿	猪	伊	飯	岡
	渡	根										